



中辺路高原地区の三叉路にある祠。道祖神とは、村内に禰や病を招き入れないために、村の境界線や辻、三叉路などに祀られた。現世と黄泉の国を分けるための結界でもある。



滝尻王子付近／滝尻王子は熊野の霊域の入り口とされる重要な場所。熊楠は熊野の森を守るため保護運動を展開した。



野中の一方杉／熊野古道中辺路、継桜王子の境内でひと際存在感を示す樹齢800年の大杉。南向きにだけ枝を伸ばしている。



藤白神社の楠／元は五体王子のひとつ藤白王子。海南市にあり熊楠の名前は藤白神社に由来する。

エコロジーと民俗学の交差点

和歌山の自然と 人々の絆を守る 鎮守の森



2011・国際森林年

2006年の国連総会決議により国際森林年とされた2011年。世界中の森林の持続可能な経営保全の重要性に対する認識を高めることが目的。知事は、我が国におけるその普及方法を討議するために設置された国内委員会の委員となっている。

熊楠が自然保護を訴えたのは、樹々が伐採され、神社を囲む鎮守の森がなくなれば、心のよりどころが破壊され、人々の絆が失われてしまうと考えたからだ。民俗学を研究していた熊楠にとって、それが強固な反対運動に駆り立てた原因のひとつだった。また、粘菌の観察をはじめとする植物学の研究フィールドを守りたかったからだとも言われている。

実際に那智の滝の水源である原始林にも伐採の計画が及んでいることを知った熊楠は、反対する意見書を新聞に投稿し、その熱意に人々が心を動かされ裁判を起し勝訴した。他にも神島や野中の一方杉、闘雞神社や八上神社、田中神社など多くの自然が守られた。もし彼に海外生活で得た見識と、優れた知性、類いまれな行動力がなければ、熊野の森は死に絶えていたかもしれない。

日本人らしい生き方とは、自然と対立するのではなく、調和しながら暮らしていくことである。そうした熊楠の「エコロギ」なる精神は日本人の心に根付いた。森も信仰も人々の絆も消失するのは一瞬である。熊楠の唱える自然保護のその根底には、全ての生き物に対する深い愛情が見て取れる。熊楠が守った森は、神々が宿る神聖な土地であり、心のよりどころでもあり、それに寄り添うように暮らす人々の絆の象徴だった。自然と人々との共生。熊楠の大切にしていた「エコロギ」である。



高原熊野神社／春日造檜皮葺の本殿は中辺路沿いでは最古の建築物と言われている。本殿裏には樹齢1000年近い楠が数本建ち並ぶ。熊楠は、合祀の対象になり伐採されようとするこれら巨木を守るために孤軍奮闘した。



那智原始林／那智大滝の東に広がる原始林で熊野那智大社の社有林。熊楠は足掛け3年に渡り調査研究した。山中でいるんな妖怪に出会ったという逸話が残されている。

